

重点領域にかかる産業界の意見

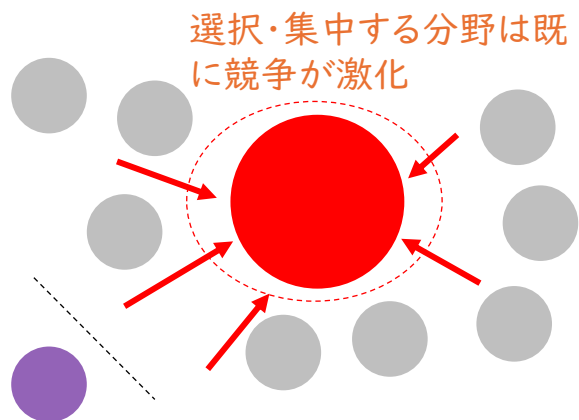
2025年9月1日
（一社）日本経済団体連合会
常務理事 岩村 有広

1. 戦略と創発の重要性
2. 重点領域の考え方
3. 具体的な重点領域
4. 産学連携にかかる産業界から見た留意点

1. 戦略と創発の重要性

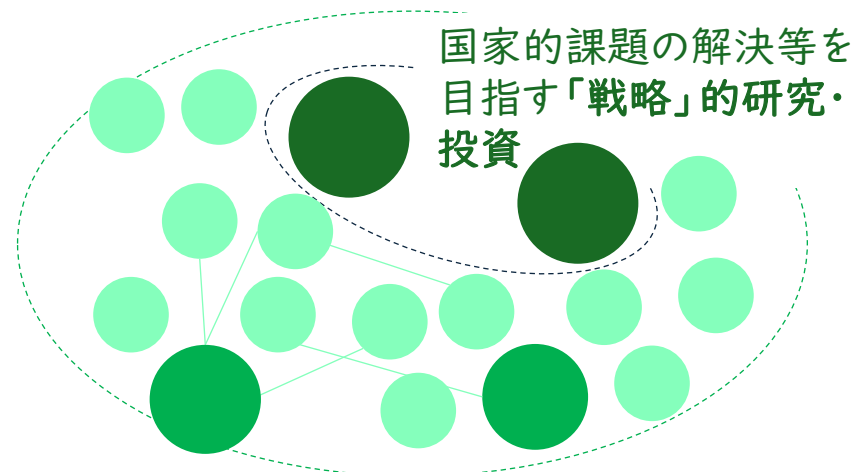
- ・「**選択と集中**」では破壊的イノベーションの萌芽を育成することができない一方、選択、集中した分野も既に競争が激化しており負け続けることになる。
- ・幅広い分野に長期的視点で投資し、多様性と融合によってイノベーション創出を目指す「**創発**」と、重点領域を明確化し、資源を集中投下する「**戦略**」の2つを車の両輪のように推進すべき。

選択と集中



破壊的イノベーションは選択から外れた想定外の分野から起きる

戦略と創発



短期目標を設定せず、多様性と融合によってイノベーション創出を目指す「創発」的研究・投資

2. 重点領域の考え方

「戦略」領域については、以下の観点から「重点領域」を明確化し、資源を集中投下すべき。

- ・社会的課題の解決や経済安全保障の確保に向け、

総花的なバラマキではなく、限られたリソースを「重点領域」に集中投下。
内閣府は予算獲得・執行・評価のすべての面でリーダーシップを発揮。

- ・「自律性」の観点から、

わが国が直面し、かつグローバルな展開にも資する社会課題を国として
特定し、その解決に必要な技術等を検討し、コンセンサスを形成。

- ・「不可欠性」の観点から、

加えて、産業競争力の維持・向上のためには、研究開発、モノづくりのためのサプライチェーンの実態を踏まえ、必要な素材・材料、技術（半導体製造技術等）の確保も重要。

3. 具体的な重点領域

人口減少

・国内のみならず、近隣アジア諸国において人口減少による様々な課題が表面化し、省人化・無人化が必須⇒AI・量子、半導体製造、ロボット関連技術等

エネルギー・資源不足

・わが国は資源の少ない島国であり、エネルギー需要の拡大や資源制約の深刻化が懸念。国際的に遜色のない価格での安定したエネルギー供給を実現⇒AI・量子、データ利活用、バイオ、次世代革新炉、フュージョンエネルギー技術等

食糧確保

・近年における将来的な食糧確保の不安定化への懸念、国内生産の強化が不可欠⇒バイオ、AI・量子、データ利活用、ロボット、宇宙関連技術等

自然災害の激甚化・大規模化

・地球規模で、地震・豪雨など自然災害が頻発し、災害時のデジタルインフラの脆弱性が課題⇒データ利活用、通信インフラ、宇宙関連技術等

4. 産学連携にかかる産業界から見た留意点

- ・社会課題解決のため、幅広い研究・技術領域で大学等の役割は極めて重要。
- ・そのうえで、個別研究・技術の探究のみではなく、社会課題解決のために研究領域に横串を刺し、総合力で勝負することが必須。
- ・そのための研究領域の横断性向上や、「つなぐ」人材が必要。

【産業界の主な声】

(1) 研究領域の横断性の欠如

- ◆ 各々の技術要素を横断的につなぎ、統合的な製品を作り出す場合、大学側の研究領域が狭く、細分化されているため、個別研究が一つの束としてつながっていない。
- ◆ 大学内の研究テーマが学部・研究室ごとに分断され、他分野・他学科との有機的な連携が取れない。

(2) 「つなぐ」人材の不足

- ◆ 俯瞰して複数研究を束ねて戦略的に設計・進行できる統合型研究マネジメント人材が大学にも企業にも不足。
- ◆ 大学と企業の考え方の違いを橋渡しできる人材が不足しており、研究の方向性が一致しにくい。
- ◆ 大学間をつなぐ力が弱い。地方大学に優れた研究者がいても、個人の伝手(つて)でしか対応できない。